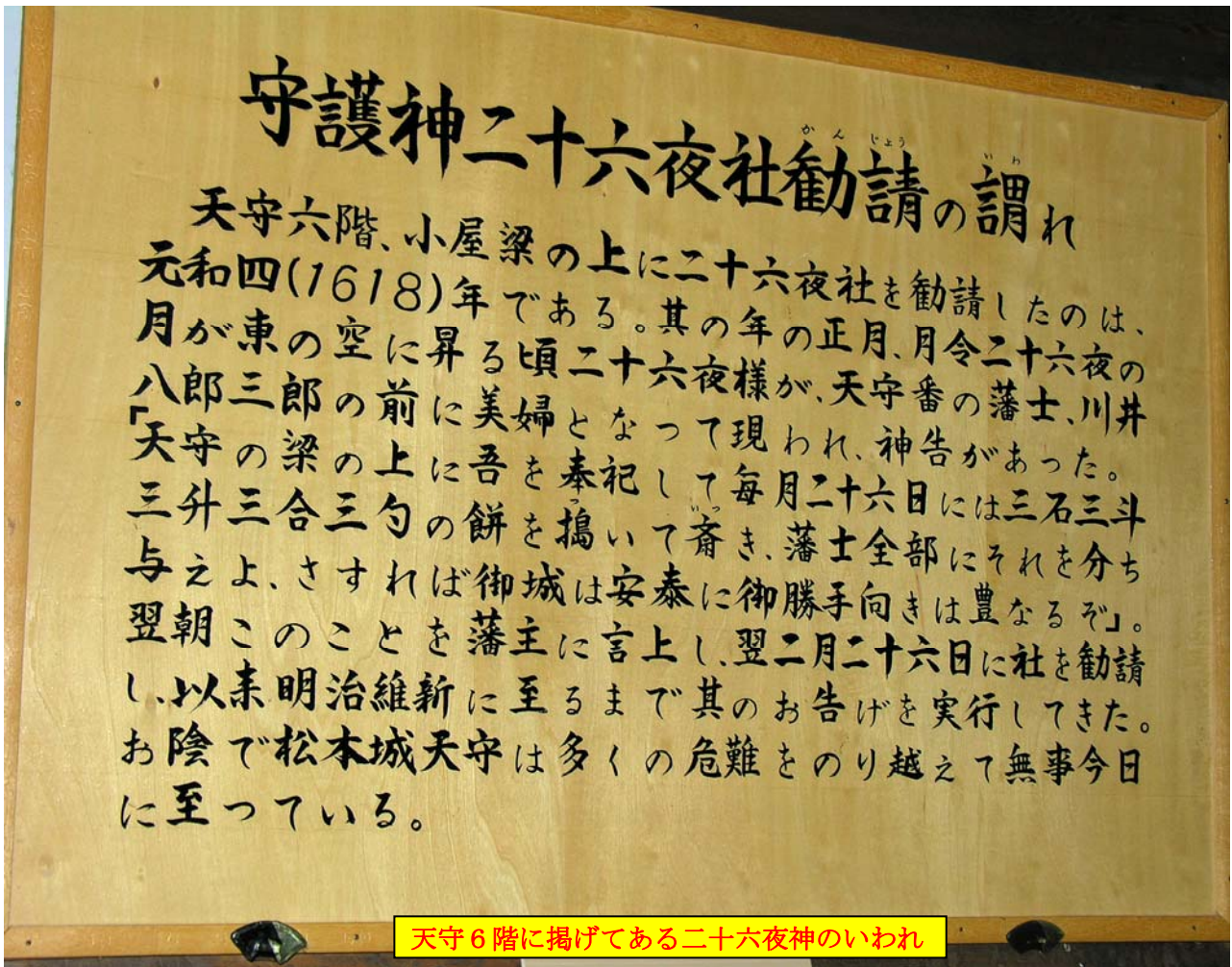


4-3 二十六夜神ガイド

1、二十六夜神のいわれ



2、関東での二十六夜神が松本に

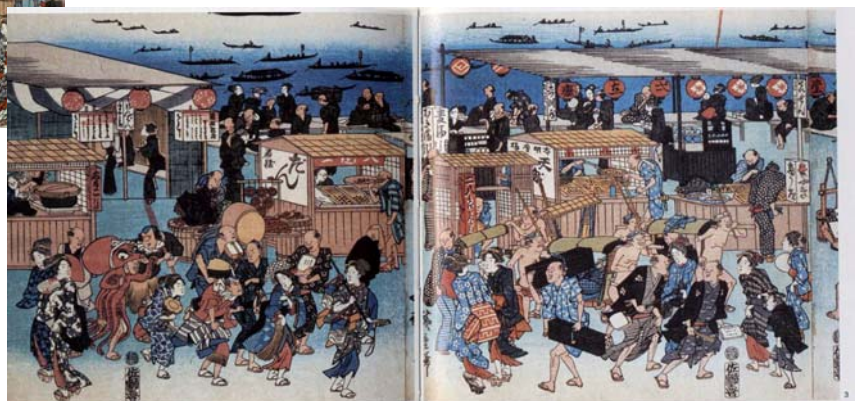


二十六夜神のにぎわい

月の中に三尊仏の姿が現れるといわれた7月26日の月の出(二十六夜)には、眺めのよい高台や海辺に人々が集まり、人出をあてこんだ屋台店がたくさん出されている。三尊仏を拝むことができると、この年は無病息災であるという風習があり、大勢の人出があった。

天保2年(1831)頃、歌川広重が描いた錦絵「東都名所 高輪二十六夜待遊興之図」

関東の月待ち信仰が松本に持ち込まれたのは、戸田家であり、古くから



二十六夜神を祀って、藩士に酒肴をたまわる行事が伝わっていたという。

3、川井家と二十六夜神

その後川井家は後々まで二十六夜神の御秘儀に参列して、饗応に預ったという。また享保12年(1727)の御殿火災の際に、天守に類焼が免れたのは、この二十六夜神の御加護と信じられている。

二十六夜神の御神体は、明治初年まで天守最上階の井桁梁の上に祀られていたが、明治4年(1871)8月26日に戸田藩主の命令で川井八郎三郎の子孫、川井良氏宅に遷座されていた。そして昭和の大修理(解体復元)が終了した昭和30年10月8日に、大町市の川井家より移され、天守6階に遷座された。

松本古城会の皆さんにより、毎年本丸庭園に二十六夜神を遷座して祭礼が11月3日に行なわれている。



川井家での奉告祭



国宝松本城守護神 二十六夜神御遷座

奉納を

してお祭りをする。

古城会の皆さんにより実施される。写真のように幟旗が建ち、彩りをそえる。さて幟旗の文字解説・解釈は、10月末建立されるころお伝えします。

4、現在の二十六夜神祭

二十六夜神祭前日には、祭壇の飾りつけをおこない、神主による

清拔式を実施、その後餅つきを行い、一般にもふるまう。祭り当日

には、正装で神主により清拔式、祝

仮殿清拔 昭和30年10

